

I. 2016 年度 F D 活動の総括

2016 年度も人文学部は着実に F D 活動を行った。活動の形態は例年をふまえているが、その内容等においてこれまでにはなかった試みを行うこともできた。以下に、2016 年度年間 F D 活動の総括を行いたい。

まず、F D 研修会については、6 月と 12 月に行った。6 月の F D 研修会は、例年通り、8 つのカリキュラム単位で実施した。共通のテーマは、「2015 年度実施授業アンケートの自己分析と授業の改善方法」であり、各カリキュラム単位で議論された内容は、以下のようなものであった。授業レベルの設定の仕方、シラバスの内容と実際の授業内容との関係、板書に対する学生の評価、映像資料の使用の仕方、小テスト実施の仕方と効果、グループディスカッションの効果、ムードル活用の効果、授業外学習の促進方法等々。いずれも授業運営においては大事な事柄である。6 月 F D 研修会については、マンネリ化しているとの見方もあるが、議論されている内容から判断するに、実施していく意義は充分にあると思われる。

12 月 F D 研修会については、これまでその年度の F D 活動の総括を行うという形で実施してきたが、今年度においては大学院における教育を取り上げる形で実施した。実施単位は、専修（地域言語文化論、地域社会文化論、地域行政政策、地域経営法務）で、共通のテーマは、「修士論文完成までの大学院生指導のあり方」であった。取り上げられた内容は、以下のようなものである。特講・演習の内容、修士論文作成に至るまでのスケジュール、修士論文指導の実際、社会人大学院生・外国人留学生の指導における問題点と対応、複数教員指導体制のあり方等々。今回は専修単位で実施したため、きめの細かい議論をするには参加者が多すぎる専修もあったようだが、今後さらなる組織上の発展と教育内容の充実を目指している人文社会科学研究科にとって、大学院教育に関する F D 研修会を実施していくことはとても重要であると思われる。

次に、F D 講演会であるが、今回は 9 月に本学のキャリア支援センターから東川正朗氏と石井美帆氏を講師としてお迎えし、「学生へのキャリア支援について」という演題で講演を行っていただいた。講演では、キャリア支援センターの取り組み、及びキャリアカウンセリングの現状に関する詳細な説明がなされた。それを通して、就職活動のスケジュール、時期ごとの学生の心理状態、内々定の実態、教員ができることなどに関する有益な情報を得ることができた。キャリア支援も学生への教育の大事な一環であるので、このような F D 講演会を開催できたことはとても有意義であったと考える。

授業改善のための F D アンケートは、7 月及び 1～2 月に実施した。総合的に見て、結果はとても良いもので、最重要項目ともいえる満足度では今回も 4.0 を超えており、以前の年度から引き続いて学生からの評価が高いまま推移していることが確認された。なお、このアンケートでこれまで問題になってきたのは、Web 入力アンケートの回答数の少なさである。2016 年度に関しては、周知方法のさらなる改善策を講じることによって回答数を増やそう

としたが、満足のいく結果は得られなかった。大学院生を対象とした授業改善アンケートについても、回答数の少なさが問題になってきた。こちらのアンケートについても用紙の配布方法等に工夫をすることで回答数を増やそうとしたが、良い結果は得られなかった。いずれも委員会の力が及ばなかった点である。

2017年度からはこれまでの紙媒体アンケートと Web 入力アンケートが廃止され、新しい形態のアンケートが導入されることになっている。その詳細は現時点ではまだ不明であるが、これまでの経験をふまえ、十分な回答数が得られるよう適切な対応を委員会で検討する必要があるだろう。

2016年度より全学的にFD活動を促進するべく、各部局のFD活動に関する情報を交換するための集まりが年に数回程度開催されるようになった。この3月に行われたその集まりの席上で、人文学部はFD活動を熱心に行っている部局という評価を耳にした。このような評価が続いていくよう、今後も学部のFD活動を地道に継続していければと考える。

2016年度FD委員会委員長 村上直樹